

Monthly Report

Vol.77 / 2012 Sep.

デンマーク・リレベルト大学と協定書を締結



9月にデンマークを訪問し、リレベルト大学（University College Lillebaelt）と協定書を締結してきました。11日の調印式には地元オーデンセ市のテレビ局からの取材も入り、日本の大学との協定書締結への関心が伺われました。本学とデンマークの教育機関との協定書の締結は、本年5月のノアフュンス国民大学（Nordfyns Folkehøjskole）に続き、2校目となります。

デンマークは社会福祉制度の先進国であり、福祉関連の領域において、本学（ひいては日本）の学生が学ぶべき事柄や参考にするべき事柄が数多く存在するものと思われます。本学には既に、健康福祉学科の高橋まゆみ准教授がデンマークに留学し、何名かの学生がデンマークを短期留学・研修の地として選択している実績があります。また現在リレベルト大学に本学の学生の三浦多輝美さんが短期留学しており、来年度に同大学に留学を希望している学生もおります。もう一つの協定校であるノアフュンス国民大学では来年3月に本学の学生たちの2週間に亘る研修が予定されております（この研修は本年度日本学生支援機構から支援対象プログラムとして採択されております）。

今回のリレベルト大学との協定書の締結が、健康・福祉分野を中心とした今後の両校の教員・学生間の交流に更なる拍車を掛けるものと期待するところです。

報告：国際交流センター長・教授 鎌田幸雄

目次

リレベルト大学と協定書を締結	1
9月期卒業式 節電目標達成の報告	2
愛知県私立大学事務局長 会視察研修団が来訪	3
運動栄養学科がスポーツ栄 養セミナー開催	4
JOC指定トレーニング施設 へ就職内定	5
海外研修報告	6
OB・学生の活躍	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
したら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

平成24年度9月期卒業式



9月26日（水）にA棟大会議室において平成24年度9月期卒業式が挙行政され、朴澤学長から卒業証書・学位記が授与されました。今回卒業を迎えたのは浅田克麻さん（体育）、今野亮さん（健福）、中泉翔さん（健福）の3名で、中泉さんは仕事があるため出席することはできませんでした。朴澤学長の挨拶では、「他の学生よりも長い期間大学に在籍したことをよい経験と捉え、仙台大学で学んだこといかに発揮され、今後の日本の発展に貢献していただきたい」と述べ、卒業生の挨拶では今野さんが「社会人として自立するとともに、地域スポーツに積極的にかかわっていきたい」などと述べました。

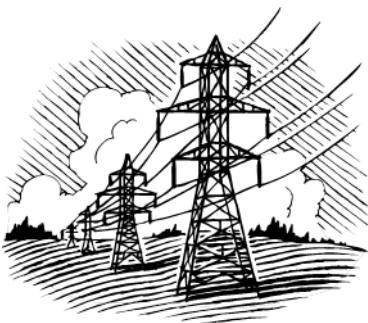
プール安全祈願祭・起工式



写真提供：管理課鈴木職員

9月11日（火）11時より、室内温水プールの安全祈願祭・起工式が執り行われました。以前の室内温水プールは昨年起きた東日本大震災により使用不能となり、今年5月より解体工事が行われていました。新しい室内温水プールの完成予定は平成25年3月です。

節電目標達成のご報告



今夏は、東北電力管内の節電数値目標はありませんでしたが、本学では「被災地であるからこそ積極的に節電対策に取り組むべき」との認識に立ち、昨年とほぼ同等の目標を設定して節電に取り組みました。具体的にはエアコンの設定温度を28度とした他、廊下や体育館照明の間引き、各々の意識による消灯の徹底等を実践し

ました。その結果、最大使用電力は690.9kW（8/4オープンキャンパスで記録）で、目標としていた700kWを下回ることができました。震災前の2010年夏の最大使用電力は900kWであり、23%の削減となりました。

これも偏に学生・教職員の皆さまのご尽力があつての達成です。今後も引き続き、無駄な電力消費をなくすことを心掛けていきましょう。ご協力ありがとうございました。

愛知県私立大学事務局長会視察研修団が来訪



9月4日(火)に愛知県私立大学事務局長会の視察研修団27名が本学に来訪しました。愛知県では「東海地震」、「東南海地震」、「南海地震」などのM8クラスの巨大地震が100-200年周期で発生しており、さらに8月末には内閣府から「最悪のケースでは死者32万3000人」という南海トラフ巨大地震の被害想定が発表されたこともあり、地震や津波対策への関心が急速に高まっています。そんなこともあり、今回の研修会は被災地である宮城県内の大学で実施され、本学も訪問先の1つ

として研修団を迎え入れました。

研修では、災害ボランティア派遣の総責任者である山谷教授が「東日本大震災に際しての仙台大学の取り組み」と題しミニ講話を行い、地震発生当時の状況や大学の被害状況、原発事故対応に伴う留学生の帰国対応、仙台大学災害ボランティア活動などについて説明を行いました。その上で、大震災から学んだ教訓として「大学にとって学生の安否確認が最優先事項である。固定電話や携帯電話が機能しない状況下で、学生の安否を早急に確認する手立てを事前に構築しておくことが求められる。」と訴えました。



質疑応答では「安否確認のアクション方法について」、「災害ボランティアを受け入れる際の行政の窓口について」、「教職員の出勤体制について」など、活発な質問が出され、災害対策への関心の高さがうかがえました。

就職活動キックオフセミナー



9月21日(金)に3年生の就職活動をスタートさせる「就職活動キックオフセミナー(主催:創職作業チーム)」がB300教室で午前(体育学科生対象)と午後(その他の学科生対象)の2度開催されました。はじめに創職作業チームリーダーの齋

藤博教授が、就職活動が始まる12月までに行うこととして、自己分析と業界・企業研究をあげ、「就職活動は学生側が企業を選択して面接先を選択するが、採用者を選ぶのは企業側。選んでもらうためには自己分析をしっかりと行い、企業側に自身がアピールできる特徴を正確に伝えられる準備が重要。また、入社後に後悔しないためにも自分がどの職業に就きたいのかをよく考え、業界研究・企業研究に積極的に取り組んでほしい」と話しました。

次に、入試創職室の鈴木職員が昨年度卒業生の就職の状況や今後の就職指導計画や創職作業チームとの就職指導個別面談等について説明を行いました。その後、就職活動のSPI試験(筆記試験)と、その解説を行い、就職への意識を高めました。

運動栄養学科がスポーツ栄養セミナー開催

～ベガルタ仙台ジュニアサッカースクール仙南校保護者対象～



9月3日(月)、10日(月)に運動栄養学科の岩田講師と津吉講師がベガルタ仙台ジュニアサッカースクール仙南校に通う受講生の保護者を対象に「スポーツ栄養セミナー」を開催しました。これはベガルタ仙台と本学との産学連携プロジェクトの一環として実施されたものです。

3日に開催した津吉講師のセミナーは「水分補給」をテーマに、水分の役割や運動時に適した飲料について説明した後、新助手・学生も加わり、栄養成分が異なる市販の清涼飲料水を使い、どの

飲料水を運動前後のどのタイミングで飲むのが適しているかの確認や、市販の清涼飲料水に含まれる糖分と同量の糖分を含んだ砂糖水を試飲いただくなどの実習を行い、運動時の水分補給の大切さを理解していただきました。

翌週に行った岩田講師のセミナーは「食事」がテーマで、試合期に摂る食事の注意点などを説明した後、普段の食事で子供が食べるご飯の量を実測してもらい、エネルギー量が充足しているかのチェックを行いました。世間的には子どもの肥満が問題視されていますが、仙南校に通う子ども達について言えば炭水化物の量が足りていない傾向が強かったようです。セミナー2日間で約40名の参加があり、大変好評でした。今後もベガルタ仙台と連携してセミナー開催を検討して行かれるそうです。



同法人・明成高校の父母教師会に進学説明会を実施



仙台大学に進学を希望する明成高校生の保護者に教育方針や教育概要、入試概要等を理解してもらうために開催している「明成高校父母教師会への進学説明会」が9月14日(金)に開催されました。

仙台大学に進学を希望する明成高校生の保護者に教育方針や教育概要、入試概要等を理解してもらうために開催している「明成高校

KMCH大会議室での説明会では、丸山副学長から教育方針と教育概要について説明した後、入試創職部の高橋(弘)部長が進学に関わる概要と卒業生の進路状況の説明を行いました。説明会終了後には施設見学を行い、教育・研究施設、トレーニング施設を見て大学への理解を深めて頂きました。



明成高校 大河原地区教育懇談会



9月26日(水)に本学第5体育館大会議室において明成高校の大河原地区教育懇談会が開催され、県南地区に所在する中学校の校長先生12名にご出席いただきました。明成高校からは朴澤理事長、佐々木稲生校長はじめ13名の教員が出席し、明成高校のグランドデザインや、各科の特徴、教育方針の説明を行いました。本学からも中学・高校で教鞭を執っていた先生方が参加し、意見交換を行いました。

明成高校学園祭に仙台大学ブースを設置



9月1日（土）に開催された明成高校学園祭で、法人事務局の那須企画課長の主導で図書館内に仙台大学ブースが出展されました。大学案内冊子、大学紹介映像、OBのユニフォーム等を展示し、アピールしていただきました。同法人である本学への進学を考えてもらう良い機会となりました。

写真提供：那須課長（法人事務局）

JOC指定トレーニング施設へ就職内定



ふくやまへいや

早川講師ゼミ生の福山平也さん(体育学科4年／横手清陵学院高校卒)が今年6月に開所した下呂市濁河温泉高原スポーツレクリエーションセンターへの就職が内定しました。この施設は国内初の本格的な高所トレーニング場を兼ね備えたスポーツセンターで、(財)日本オリンピック委員会（JOC）の陸上競技強化センターにも指定されています。標高1700mという高地に立地し、運動施設や宿泊施設が整備されています。指定管理者はスポーツ科学の権威として知られる小林寛道東大名誉教授が務め、同氏が考案した「認知動作型トレーニングマシン」も多数設置されています。高校や実業団の陸上競技や自転車競技、トライアスロンの選手など、多くの方に利用されています。

福山平也さん（体育学科4年）

・就職内定のきっかけを教えてください

昨年の夏に早川講師とともに静岡県で行われた認知動作型トレーニングマシンの講習会に参加しました。そこで小林寛道先生とお話しさせていただく機会があり、「認知動作型トレーニングマシンに携わる職業はどんなものがありますか？」と質問させていただいたところ、「下呂市濁河温泉高原スポーツレクリエーションセンターをつくるので、そこで働いてみてはどうか？」と、誘っていただきました。早川先生のゼミ生ということが大きかったのだと思いますが、幸運でした。



・認知動作型トレーニングマシンの魅力は？

大学2年の時に早川講師から認知動作型トレーニングマシンの本を貸してもらったことがきっかけで自分でも陸上競技のトレーニングの一環としてこのマシンの虜になりました。このマシンは幅広い年齢層の方々に安全に利用してもらうことができ、短期間で効率よくフォーム改善できるのが特徴です。トレーニングには筋肉痛がつきものと考えていましたが、このマシンは筋肉痛を伴わず脳にも強く働き掛けるので誰でも無理なく、楽しみながらできるので、長続きするトレーニングであることが最大の魅力ですと感じています。

・事前研修に行かれたそうですね？

来年4月から働くための事前研修として、7月11日～8月29日の期間、当施設でアルバイトとして働きました。7月から営業開始にもかかわらず多い日で1日130名の宿泊客の利用があり、多方面から注目されている施設であることを実感しました。今回の研修では簡単な仕事もできないことが多々あり、反省点ばかりでした。しかし、研修を経て社会人として自立したいという思いが強く思えたことが最大の収穫と感じています。



・教職員、学生に向けて

高地に滞在するだけでもトレーニングになるので、サークルの合宿等で当施設を是非、ご利用ください。



写真提供：早川講師

ハワイ州立大学アスレティックトレーニング研修アドバンスコースを終了して



ハワイ大学医学部棟にて

9月11日～18日（6泊8日）に、ハワイ州立大学でアスレティックトレーニング研修アドバンスコースを実施しました。研修に参加したのは

体育学科4年の菅原夕貴さん、貝沼由香里さん、体育学科3年の外谷涼将さん、木村和実さん、久良知佑丞さん、体育学科2年の三好聖奈さんの6名です。参加した学生たちは、学年やアスレティックトレーニングに関する知識レベル、そして海外経験にそれぞれ相違があったため、充実した学習ができるのか、出発前は不安なところがありました。しかしながら、引率教職員の協力や、学生たちの責任感と自立性により、滞りなく全日程を終えることができ、充実した経験と学習ができた研修になったのではないかと考えています。

研修内容はハワイ州立大学の方で組んでいたプログラムで、アドバンスコースの目玉でもある献体解剖、英会話の授業、アスレティック

トレーニング施設の見学、大学講義への参加、アメリカンフットボールの試合観戦など、ハワイでの大学生活を深く体験することができるプログラムでした。最終日には、過去のハワイ研修ではなかった、「自主研修」というスケジュールを組み込み、学生を2グループに分け、自分たちでハワイ州オアフ島内のどこに研修へ行くのかを決定し、ハワイの自然や文化、歴史を学びました。

また、今回の研修では、「研修修了式」をはじめ実施していただき、ハワイ州立大学アウトリーチカレッジから、研修の修了証書を授与しました。この席で、学生が英語で研修の感想や感謝の念を発表する機会もあり、とても和やかな式となりました。

今回の研修で学生たちは、現地の方やアスレティックトレーナーと触れ合い、とても充実した日々を過ごしていたようです。学生がこの研修を通して学んだことや経験を、これからの大学生活・卒業後に活かすことを期待したいです。

報告：助教 高橋陽介



英会話授業の様子

英語に親しむ目的で、英会話の授業に参加しました。日本語を一切使わず、英語だけを話さなければならない環境で、少し緊張した面持ちながらも、笑顔で楽しんで、その授業に取り組んでいました。



大学授業への参加の様子

「下肢部の傷害評価」と「スポーツ障害の予防と処置」という講義に参加させていただきました。この他、ハワイ州立大学修士課程に所属されている大西氏と博士課程に所属されている大庭氏による、「アメリカの大学・プロ野球におけるアスレティックトレーニング」と題した講義・演習を受講しました。



マッキンリー高校でのアスレティックトレーニング実習見学

アスレティックトレーニングがどのように運営されているのか、そしてどのようにアスリート達に対応しているのかなどを見学させていただきました。この他にハワイ州立大学のアスレティックトレーニングルームも見学させていただき、選手にテーピングや処置を施す様子や、アスレティックトレーニングルームの運営を観察することができました。



アメリカンフットボール観戦

ハワイ州立大学にとって今シーズン最初のホームゲームを観戦させていただき、選手や関係スタッフはもちろんのこと、25,000人近い観客が、祭りのような盛り上がりを見せていました。

RISM 2012 米国研修に参加して

2012年8月26日から9月2日の日程で、アメリカの大学における学生の学習成果（スチューデント・ラーニング・アウトカム＝SLO）の取組について学んできました。

この米国研修は、現在本学客員教授の船戸高樹先生が主催され、毎年夏に挙行されております。船戸高樹先生は、昨年まで桜美林大学大学院大学アドミニストレーション専攻修士課程（通信課程）でゼミを担当されており、その船戸ゼミが中心となっております。

研修のメンバーは、全国から集まった船戸ゼミ修了生がほとんどであり、今回、本学から参加したメンバーは、学生支援室兼GTセンター西塚室長と山梨助教です。

本年度の研修では大学3校に訪問し、アクレディテーション（大学認定評価）団体のレクチャーを受けました。サンフランシスコにて、University of Pacificでは、エンrollment・マネジメントにおける卒業生対策について、WASC（西部地区基準協会）では、アクレディテーションにおけるアウトカム評価について、またロサンゼルスにて、UCLAでは、アウトカム評価のためのデータ収集と分析手法について、Pitzer Collegeでは、リベラルアーツ系大学におけるアウトカム評価の実際についてお話を伺いました。

現在、アメリカでは、リーマンショック以来、国内は景気後退に陥り、なお回復しているとはいえない状況にあること、もうすでに昔の強いアメリカではないことに驚きを感じました。そのような中、経済的な理由により私立大学の希望者が減少傾向にあり、大学の経営の面でも、出願者の確保に対する取組が行われています。その中でも特記すべき点は、「学生のために何かできるのか」という他大学にはない利点（奨学金制度、大学付属機関、留学生や編入生対策、立地条件、等）が何であるか特色を明確にし、優秀な学生に対して個別にコンタクトをとるといった入募対策がとられていることです。

この方法をとることで、大学の特色を明確に示し、大学が求める学生や、優秀な学生を獲得することが可能となります。

また、入学後の「教育の質」の保証を確保するために学生に対し調査をおこない、カリキュラムや教授法などに還元していくシステムが構築されている現状を知ることができました。現在では、日本でも学生に対して調査を導入している大学は数多くありますが、アメリカの大学は、その調査結果を有効に還元していました。日本の大学でも、この点を強化する必要があることを痛感しました。

訪問したいずれの大学においても、大学として

の使命とそれを支える核を大学関係者が共通認識し、戦略的な計画を立て、実行していくなかで、学生に目的・目標をもって卒業させることが最善の使命である、という強い意識があると感じました。

現地では、新学期が始まったばかりということもあり、学生の学内での様子も垣間見ることができました。レクチャーの際には、参加者からの積極的な質問が飛び交い充実した研修となりました。我々、今回の研修に参加することができ、米国の最新情報が聞けたことに非常に充実感を覚えました。今回、派遣いただいたことに心より感謝申し上げます。今後はこのような貴重な経験を生かし、これからの実務に生かしていきたいと思っております。

報告：学生支援室長 西塚重良
助教 山梨雅枝

University of Pacific

講義風景



Dr. Robert Alexanderと共に



UCLA

キャンパス内



Dr. John H. Pryorと共に



WASC（西部地区基準協会）



Pitzer College



ロ ゲンチュウ

台湾・台東大学からの留学生 盧彦中さんが帰国

～ダブルディグリー制度で本学での必須科目を全て修得～



台東大学（台湾）とのダブルディグリー制度により、本学で2年間（2010年10月～2012年9月）学んでいた

盧彦中さんが予定していた科目を全て修得し、9月8日に帰国しました。

盧さんは台東大学に戻り、現在、卒業に必要な科目を履修中で、来年1月に卒業する予定

です。卒業要件を満たせば両大学の学位取得が認定されることとなります。

盧さんは本学に留学して半年後に東日本大震災を経験。当時、台東大学から8名（2年目2名、1年目6名）の留学生が学んでいましたが、震災により全員が一時帰国。福島第一原発の問題もあり、日本に戻ったのは半年後に留学修了を控えた2名の学生と盧さんだけでした。その後も講義やサークル、課外活動に積極的に参加し、両大学で行う短期交換留学の際に通訳として率先してプログラムに参加するなど、両大学間の交流の懸け橋としても尽力しました。

[帰国3日前の取材]

・仙台大学で未曾有の大震災を経験されましたが？

震災では仙台大学の対応により、留学生は一旦それぞれの国に帰り、日本に戻るかはそれぞれの判断に委ねられました。当時、台東大学からの留学生は私を含めて6名いましたが、震災後に仙台大学に戻ったのは私1人だけでした。台湾でも日本で起きた大震災と原発事故は大きく報道されていたので、戻れなかったのも仕方ない状況だったと思います。私は何事も中途半端で終わることが

嫌いな性分なので、留学を全うしたい思いが強かったことと、山梨県に住む叔母の「日本は大丈夫」という言葉を信じ、日本に戻ることができました。

・今は日本語が上手ですが、留学当初はどうだったのですか？

当時は「あいうえお」が話せる程度でした。来日してから学生支援センターの語学支援や自分で日本語の勉強をしましたが、なかなか上達しませんでした。昨年7月にボブスレー・リュージュ・スケルトン部（以下：B.L.S部）に入部してから、部員と話す機会が増えたことで日本語の理解が進みました。おかげで昨年12月の日本語能力検定N2（旧試験2級）にも合格することができました。

・スケルトン競技は今後も続けていくのですか？

台湾にスケルトン競技者がいないこともあり、台湾の強化選手に指定されました。11月からはヨーロッパに遠征して経験を積む予定です。競技歴が浅いため2年後のロシア・ソチ五輪には間に合わないかもしれませんが、2018年の韓国・平昌五輪では成績が残せるように頑張りたいです。

・今後の進路について教えてください

来年1月に台東大学を卒業した後は、できれば仙台大学大学院に進学し、野外教育を学びながらスケルトン競技に打ち込みたいと考えています。台湾に戻り、親や先生方と今後について相談したいと思っています。

本学OBプロサッカー選手 細川淳矢選手がJ2水戸ホーリーホックと正式契約



前回のマンスリーレポートでも紹介しましたが、本学OBの細川淳矢選手（平成18年度卒）の所属先が決定しました。ケーズデンキスタジアム水戸（茨城県水戸市）をホームスタジアムとするJ2水戸ホーリーホックで、背番号は34番です。このチームには1999-2000年シーズンに本学OBの苦米地健一さんが所属しており、現在は元日本代表の鈴木隆行選手や市川大祐選手が所属しています。その中で、細川さんはレギュラー獲得を狙います。

是非、細川選手を応援ください。

第45回 全日本社会人体操競技選手権大会 OBの活躍



9月17日(月)に相模原市立総合体育館で第45回全日本社会人体操競技選手権大会が開催され、本学OBも多数出場し、活躍しています。特に、徳洲会体操クラブ所属の亀山耕平選手(平成22年度卒)は、得意のあん馬で種目別トップ成績

(15,700点)を出し、他の種目でも安定した演技で、今大会に出場したOBで最高の個人総合6位となりました。

本学OBの成績(男子1部個人総合)

- ・亀山耕平選手(徳洲会体操クラブ) 第6位
- ・植松鈺治選手(KONAMI) 第16位
- ・石原 大選手(相好体操クラブ) 第23位
- ・佐藤 亘選手(相好体操クラブ) 第27位
- ・下田悠太選手(相好体操クラブ) 第32位
- ・上坂昌也選手(相好体操クラブ) 第33位
- ・宗像 陸選手(相好体操クラブ) 第34位
- ・田中洋介選手(相好体操クラブ) 第36位
- ・久住亮介選手(順友クラブ) 第37位
- ・市川義洋選手(ジョイスポーツクラブ相模原) 第60位
- ・上田和也選手(KONAMI) 第63位

(男子1部団体)

- 第1位 KONAMI
- 第2位 徳洲会体操クラブ
- 第3位 相好体操クラブ

第90回全日本ボート選手権大会



ボート競技の国内最高峰の大会「第90回全日本ボート選手権大会」が9月13-16日に埼玉県・戸田ボートコースにおいて開催され、本学漕艇部も男女4種目ずつにエントリーして日本一を目指しました。

選手たちは持てる全ての力を発揮して素晴らしいレースを展開、男子舵手つきフォアでは準優勝に輝きました。なお、最終日に行われた決勝レースはNHK Eテレで放映され、阿部肇准教授(日本代表ヘッドコーチ)が解説を務めました。

[主なレース成績]

- ・男子舵手つきフォア 第2位
- ・女子エイト 第6位
- ・女子舵手つきクォドルプル 第8位

[本学OBの成績]

- ・大元英照選手(平成17年度卒/アリスオーヤマ) 男子ダブルスカル優勝
- ・三浦友之選手、遠藤光選手(平成19年度、平成23年度卒/NTT東日本) 男子舵手なしフォア優勝
- ・渡邊勝裕選手、西村光生選手(平成19年度大学院修了、平成23年度卒/NTT東日本) 男子エイト第4位
- ・高野雄也選手(平成16年度卒/東レ滋賀) 男子エイト第8位
- ・野崎鷹昭選手(平成17年度卒/トヨタ紡織) 男子舵手なしペア第5位
- ・小笠原沙織選手(平成23年度卒/大垣共立銀行) 女子舵手付きクォドルプル第5位
- ・廣田紗知選手(平成19年度卒/中部電力) 女子舵手付きクォドルプル第7位



全日本プッシュスケルトン選手権大会 本学関係者が大活躍



9月23日に全日本プッシュスケルトン選手権大会が長野県・スパイラルで開催され、本学からボブスレー・リュージュ・スケルトン部（B.L.S部）および小室新助手、OB・OGなどが出場し、男女とも表彰台を独占しました。男子は本学OBの高橋弘篤選手((株)システック/平成19年度卒)が優勝、笹原友希選手(あづみのうか浅川/平成19年度卒)が準優勝する中、競技をはじめてわずか半年の黒岩俊喜さん(運動栄養学科1年)が第3位で表彰台に上がりました。女子は小室希新助手が大会3連覇を果たし、OGの大向貴子選手(丸善食品工業(株)/平成19年度卒)が準優勝、小林真衣さん(体育学科3年)が第3位に入りました。

- 【男子】優勝 高橋弘篤選手
 第2位 笹原友希選手
 第3位 黒岩俊喜さん
- 【女子】優勝 小室希新助手
 第2位 大向貴子選手
 第3位 小林真衣さん

1年生ながら3位に入る活躍を見せた黒岩俊喜さん（運栄1年/川崎市立橋高校卒）



黒岩さんは高校では陸上部に所属し、公式記録ではないものの100mの自己ベストは10秒77。高1の時には日本ジュニアユース陸上競技選手権大会の100×4リレーで優勝した経歴を持っています。本学に進学したきっかけは、走るフォームを見た高校陸上部の先生から「ボブスレーをやってみたらどうか？」と言われ、ボブスレーに強い関心を持ったからだそうで、自分でボブスレー競技ができる大学を探し、高3の夏にBLS部の鈴木省三教授に志願して練習に参加しています。そこで部員の練習に取り組む姿勢と鈴木教授の情熱に魅かれ、仙台大学に進学して世界のトップを目指すことを決心したとのこと。

9月14-17日のボブスレーの全日本合宿にも参加し、プッシュで2位記録を出したことから10月30日-11月19日に行われるアメリカズカップ遠征メンバーにも選ばれています。不安材料は氷上で滑った経験が全くないこと。持ち前のスピードを氷上で発揮する技術を磨き、世界の頂点を目指す。

FUTSAL部が全国規模大会で活躍



FUTSAL部が9月10日(月)に名古屋市テバ・オーシャンアリーナで行われた、「第7回F-NETカレッジフットサルフェスタ（主催：(株)エフネットスポーツ）」に出場しました。この大会は、民間企業主催の大会としては最もレベルが高い大会で、全国各地で行われた地方予選を突破した6チームにより日本一が競われました。本学FUTSAL部は予選で九州代表を2-0、関東第1代表を2-1で下して決勝に進出しました。決勝戦で関東第2代表にPK戦の末、1-1（PK4-5）で惜敗しましたが、東北代表として初の準優勝に輝きました。

この大会の様子は、週刊サッカーダイジェスト

2012年10月2日号にも掲載され、主催者であるエフネットスポーツのブログ(<http://ameblo.jp/fnetsports/theme-10024007061.html>)にも記載されています。

また、FUTSAL部は9月11-12日に神戸市ワールド記念ホールで行われた「第7回KOBECUPカレッジフットサル（主催：兵庫県フットサル連盟）」にも出場し、初優勝しています。予選リーグでは同志社大に5-3、川崎医療福祉大Aに1-0で勝利し、1位でグループリーグを突破すると、その後も勝ち進み、決勝戦で大学界の強豪・神戸大と対戦しました。互いに譲らず接戦となりましたが、PK戦の末、3-3（PK5-4）で勝利し、見事初優勝を飾りました。

監督の笹生講師も「これまであまり活発に活動していなかったフットサル部が、昨年からの体制を一新して必死に取り組んだ成果としては選手の自信にもつながる」と話しています。FUTSAL部は所属する宮城県リーグの前期リーグを1位でターンしており、今後も県内および全国区での更なる活躍に期待がかかります。

2012 東北こども博 10/6、7開催



10月6日（土）、7日（日）に「2012東北こども博」が開催されます。このイベントは「あした、笑顔になーれ！」を合言葉に玩具メーカーやスポーツメーカーが提供するおもちゃやアニメーションのキャラクターで楽しんでもらうイベントです。

昨年のイベントには、2日間で約13,800名の方々に来場いただき、大盛況のうちに終了することができました。今年も各方面の方々の協力により、本学を会場に開催することとなりました。入場は無料ですので是非、お出かけ下さい。

イベント名：「2012東北こども博」

日 程：平成24年10月6日（土）、7日（日）

詳 細：2012東北こども博公式ホームページ

<http://www.toys.or.jp/tohoku/>

問い合わせ：社団法人 日本玩具協会事務局
03-3829-2513